

# 社会活動・環境報告書2020

### **CONTENTS**

<b>木</b> 却 生 ‡	いっこりょう	る基本情報	01

### 各ステークホルダー向けの情報

地域の皆様とのかかわり	03
お客様とのかかわり	04
仕入先様、お取引先様とのかかわり	06
株主様・投資家様とのかかわり	07
従業員とのかかわり	09
環境とのかかわり	12
国際認証の取得状況	17

# 【CSR基本方針】

『私たちメックグループは、ステークホルダーの皆さまの 期待と関心に向き合い、お応えするため、 メックグループとしてのCSRを推進していきます。』

この基本方針をもとに、従来までの環境報告書に社会性に関する情報を加え、『社会活動・環境報告書』として関連情報の開示をすすめてまいります。

### 【経営理念】

わたしたちは「独創の技術」「信頼の品質」「万全のサービス」 を信条に、自由に着想し、グローバルな事業活動を通して 界面価値創造を実現することで豊かで潤いのある社会と 環境づくりに貢献します。

### 【社 是】「仕事を楽しむ」

- 一. 失敗を恐れず常に新しい目標に挑戦しよう
- 一. 飽くなき好奇心で工夫改善を重ねよう
- 【社 訓】 一. 協調と感謝の気持ちで力を合わせ仕事を進めよう
  - 一. 安全と健康に気を配り楽しい職場を作ろう
  - 一. 広く社会に役立つことを心掛けよう

https://www.mec-co.com/about/philosophy/ 《経営理念·企業行動憲章》

# 【当社とステークホルダーの皆様とのかかわり】

### 環境

環境負荷低減製品開発 廃液・排水管理 化学物質管理 原料の原産国調査 森づくり

### 地域社会

地域貢献活動の推進 地域とのコミュニケーション 災害時一時避難所

### 従業員

働き方改革 多様性・人格・個性の尊重 健康経営の推進

# 

### お客様

環境負荷低減製品の提案 歩留まり向上製品の提案 お客様満足度の向上

### 株主・投資家

会社説明会 投資家対象展示会出展

# 仕入先

社会的責任の共有 定期コミュニケーション 説明会・面談

<mark>各ステークホルダーの彩色</mark>については、SDGsのアイコンの所定の色を用いています。

地域社会 お客様 仕入先 株主・投資家 従業員 環境

# 地域の皆様とのかかわり

メックグループは、よき企業市民として、国や地域の文化や習慣を尊重し、 地域社会の発展に貢献する企業グループであり続けます。

### メックの森活動について

電子基板等向けの薬品を製造する当社では、事業活動にともない多量の水を使います。そこで、地球温暖化防止にも役立つ水源となる森を育てることで、地域や環境にも貢献できるのではないかという思いで、長岡工場がある新潟県長岡市、本社がある兵庫県尼崎市で「森づくり」を行っています。

2019年度は育った木々の間伐や、下草刈りなどの維持活動を中心に実施しました。

活動参加者の延べ人数は、80名でした。

### 【長岡メックの森の情報】

森林整備地区:長岡市大積三島谷町地内

面 積:0.6ヘクタール

整 備 内 容:ケヤキなどの広葉樹の植栽、間伐や下草刈り

など。





### 【尼崎メックの森の情報】

森林整備地区:兵庫県尼崎市扇町33-4 面 積:600平方メートル

整 備 内 容:ヤマザクラやコナラなどの広葉樹の植栽と間伐、

下草刈りなど。



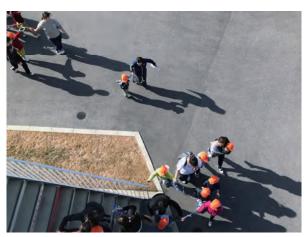


### 災害時の一時避難所として

尼崎事業所は住宅地の中にあります。

そのため、災害が発生した場合に一時避難所として活用していただけるよう、近隣の自治会にお知らせしています。また年に1度、近隣の保育園の避難訓練にも協力しています。直近では2019年12月に実施し、サンタさんも登場しました。

### 【避難訓練受け入れの様子】







### 事業所周辺の美化

敷地周辺環境の美化を念頭に、猛暑や厳冬の時期を除き、週3回当番制により側溝や道路のゴミ拾いを行っています。

収集したゴミについては、適切に分別して処理しています。

地域社会 お客様 仕入先 株主・投資家 従業員 環境

# お客様とのかかわり

メックグループは、品質、安全、信頼性を確保し、使いやすく環境に配慮された 独創的で付加価値の高い製品、技術サービスを提供する企業であり続けます。

### 製品含有化学物質管理

法規制や業界基準、お客様からの要請に基づき、製品に含有させてはならない物質(使用禁止物質)が意図せず製品に混入しないよう、含有化学物質管理体制を構築し、原料購入時から製品出荷時にいたる工程への監視や、取扱者への教育等を徹底しています。2018年11月には「製品含有化学物質管理基準」を改定し、運用のレベルアップを図りました。

社内のみならず仕入先様、お取引先様にもご協力いただき、これからも製品含有化学物質の適正な運用管理を推進してまいります。

### 製品含有化学物質に関わる方針

- 1. 環境汚染の防止および負荷の低減、廃棄物の削減および再資源化の推進
- 2. 環境に配慮した(有害性の少ない)製品の開発・改良の 推進
- 3. 環境法規制およびその他の要求事項の順守
- 4. 最新情報の収集と公開、および安全管理の徹底

### 紛争鉱物への対応

電子業界や自動車業界他におけるCSR行動規範である RBA (Responsible Business Alliance) 行動規範に準拠した活動を行っています。製品に、いわゆる紛争鉱物\*を使用しない、責任ある鉱物調達 (Responsible Minerals Initiative) も重要なテーマの一つであり、当社においても対象となる鉱物が製品に使用されないよう、社内体制を構築し、原料購入段階より監視を徹底しています。

※コンゴおよびその隣接国で、人権侵害や環境破壊等を引き起こしている武装勢力が資金源としている鉱山に由来する鉱物資源(錫、タンタル、タングステンおよび金)のこと

### お客様満足度調査の実施

当社とのお取引、製品供給、技術サポート等を通して、 お客様が当社に対して感じている要望や不満等の把握に 努め、今後に活かしていくこと、そして少しでもお客様の 声をよりよく還元できるように「お客様満足度調査」を 実施しています。





### 環境負荷低減製品の提案

2019年度実施目標	実施結果	評	価
【東京営業所】 お客様がご使用の商品、基板製造現場の状況を 把握し、収集した情報を基にお客様の環境負荷 低減活動につながる薬品・装置を紹介し、採用に つなげる[新規採用5件]	環境負荷低減の効果のご説明等を通じて お客様に主旨をご理解いただき、7件採用	達	成

環境負荷低減は世界的規模での要求であり、当社も対応製品を提供していくことが求められています。 営業部門としても、環境負荷低減対応製品を継続的に紹介し、採用につなげていくことが必要と感じています。

### SDS\*作成精度の向上

2019年度実施目標	実施結果	評	価
【ロジスティクス(化学物質管理)】 SDS作成精度の向上と省力化推進	SDS自動作成システムを導入し、手作業による 入力ミス低減や作業効率の向上を図った。	達	成

対応範囲(対応国)の拡大を図るだけでなく、環境負荷等正確な情報開示につなげていきます。

※Safety Data Sheetのこと。化学物質やその含有製品等を譲渡する際に添付する書類

仕入先

# 仕入先様、お取引先様とのかかわり

メックグループは、仕入先様やお取引先様とも社会的責任を共有し、ともに発展し、 ともに社会に貢献できる企業グループであり続けます。

### 原料調達の基本的考え

原材料を購入する際に品質、コスト、納期、技術力などの 明確な基準に基づき、仕入先様、お取引先様を選定して います。また、仕入先様、お取引先様の環境保全への 取組みも重視しています。

原料購入時には危険性・有害性の確認と共に法令順守や 環境保全に対応しています。

より良い製品をお客様に提供するために、毎年、定期的に 仕入先様、取引先様への実績評価を行っています。この 結果を基に品質改善・環境保全へのさらなる取組みを お願いしています。

# CSR調達

当社は持続可能な社会の実現に貢献する目的で、仕入 先様、取引先様にもRBA (Responsible Business Alliance) 行動規範に準じたCSRの推進をお願いして

RBA行動規範は、エレクトロニクス産業等のサプライ チェーンにおいて、労働環境が安全であること、そして 労働者が敬意と尊厳を持って扱われること、さらに 環境への責任とともに業務を倫理的に行うための基準を 規定するものです。

> http://www.responsiblebusiness.org/media/docs/ RBACodeofConduct6.0\_Japanese.pdf 《RBA行動規範》



### 原料調達リスクヘッジ強化

2019年度実施目標	実施結果	評	価
【ロジスティクス(調達)】 グローバル購買推進による原材料リスクヘッき 強化	リスクヘッジが必要な原料の抽出、評価計画を 作成し、関連部門との協議等を経て複数ソース 化等の対策を進め、緊急時にも安定的に原料 調達ができるよう取組んだ。	達	成

継続して原料リスクヘッジ強化に取組んでいきます。

地域社会 お客様 仕入先 株主・投資家 従業員 環境

# 株主様・投資家様とのかかわり

メックグループは、事業活動を通じてより大きな価値を生み出し、その企業価値が市場で 正しく評価されるよう、成長性・安定性・透明性の高い企業グループであり続けます。

### コーポレート・ガバナンスについて

株主利益の最大化を図るためには、コーポレート・ガバナンスの強化を目的とした継続的な取組みにより、企業価値の拡大を実現することが不可欠であると考えています。具体的には、公正で透明な経営・迅速で的確な情報開示・説明責任の徹底等の取組みを進める方針であり、コーポレートガバンス・コードの考えに沿った対応を進めています。

経営のダイバーシティを積極的に進めていく方針に 沿って、社外役員の招聘や女性の登用等に努めており、 取締役・執行役員の経営幹部計13名のうち4名(約31%) が女性となっています。

> https://www.mec-co.com/csr/governance/ 《コーポレート・ガバナンス》

### コンプライアンスについて

コンプライアンスについての基本的な体制、関係者の 役割、行動指針等を示した「コンプライアンス規程」に 基づき、代表取締役社長を委員長とするコンプライアンス 委員会を設置し、グループ全体のコンプライアンス確保の 体制整備を進め、多様な機会を利用して全役員・従業員 一人ひとりへの周知徹底を図っています。

 $\label{eq:https://www.mec-co.com/csr/compliance/} $$\operatorname{avj}_{7}(x) = (x)^2 + (x)^2 +$ 

### 内部通報制度の整備

法令違反行為・不正行為が行われている、または行われようとしている場合には内部通報を行うよう規定しています。社内・社外に通報先を設け、通報しやすい体制を構築しています。

### 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

企業行動規範において、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決することを基本方針として掲げています。具体的には、組織的対応体制を確立し、必要であれば、警察等関係行政機関、顧問弁護士および業界団体と連携し、適切な措置を講じることとしています。



也域社会 お客様 仕入先 株主・投資家 従業員 環 境

### 内部統制システムについて

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は、以下のとおりです。

### 内部統制システムの基本方針

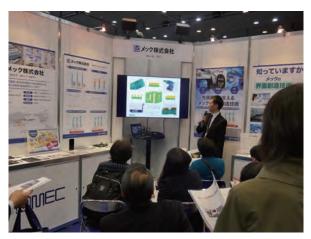
- 1. メックグループの取締役・使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
- 2. メックグループの取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- 3. メックグループの取締役の職務の執行に係る情報の 保存および管理に関する体制

(以下省略)

https://www.mec-co.com/csr/governance/ 《コーポレート・ガバナンス 内部統制システムの基本方針》

### 株主・投資家向け各種説明会の開催

株主総会やホームページ等による情報開示に留まらず、 業績や技術情報を直接ご説明する場を設けています。 2019年度については各四半期決算説明会の開催、 日経IR・投資フェアをはじめとする3回の展示会に 出展するなどし、株主の皆様とのコミュニケーション 向上に取組みました。







地域社会 お客様 仕入先 株主・投資家 従業員 環 境

# 従業員とのかかわり

メックグループは、社是『仕事を楽しむ』をモットーに従業員がメックグループの一員であることに 愛着と誇りを持つとともに、より多くの幸せを享受できる企業グループであり続けます。

### 労働環境について

当社では電子機器業界をはじめとする業界における行動 規範であるRBA (Responsible Business Alliance) に 基づいて作成した、『労務・倫理ガイドライン』を全役 職員に配布してハラスメント防止の意識喚起を行うと 共に、社内データベースに掲示し、ハラスメントの具体 事例を周知することや研修を行うなどし、ハラスメント 防止を図っています。

### 有給休暇取得率

2019年度は73.7%でした。1人が1年あたり12.5日取得したことになります。なお、2018年度は64.8%で、1人当たり11.1日取得しました。

### 育児・介護支援制度の取得状況(ワークライフバランス)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
出産休暇取得者※1	2	1	2	2	1
育児休業取得者※1	2	3	2	1	2
育児の短時間勤務利用者	5	5	5	8	6
子育で休暇利用者**2	20	20	18	22	27
看護休暇取得者 <sup>※3</sup>	3	1	0	2	2
介護休業取得者	1	1	0	0	2
介護の短時間勤務利用者	0	0	0	0	0

当社では、出産・育児・介護などに関して、休暇制度や給付制度を設け、安心して働き続けることができる環境の整備に努めています。

- ※1 年度をまたぐ場合、取得開始時の年度に含む
- ※2 小学校就業前の子供がいる場合に1年に5日まで休暇を利用することができる制度(有給)
- ※3 取得者数が少ないのは、別に子育で休暇があるため



地域社会 お客様 仕入先 株主・投資家 従業員 環 境

### 時間外労働時間管理

1ケ月当たりの時間外労働時間が45時間を超えないように、従業員各個人の毎月の時間外労働時間をモニタリングし、健康に影響するような長時間労働を防いでいます。

2019年度、2018年度の一人あたり平均月間時間外 労働は、それぞれ約17.0時間、約16.5時間でした。

また、ワークライフバランスに関する取組みとして、2019 年度よりフレックスタイム制を導入しています。

### 教育•研修

階層別・職種別に各種の教育・研修制度を取入れています。

労務・倫理分野については、毎年リスクアセスメントやマネジメントレビューをもとに改善活動を実施しています。また、メンタルヘルスに関連する研修も定期的に実施しています。

### 新卒定着率

当社では働きやすい環境を設けるとともに、新入社員に対して研修や現場での指導・教育に力を入れています。 近年の新卒3年後の定着率は100%を維持しています。

### 従業員満足度調査

職場環境の改善などを目的に、従業員の意見や満足度を はかるための調査を毎年行っています。

### 労働安全衛生

労働安全衛生のマネジメントシステムを構築・運用し、 危険な作業や場所がないか、衛生上の問題はないかなど、 改善活動を通じて安全で衛生的な職場環境を目指して 活動しています。

### ◆教育·研修

各事業所ごとに安全衛生に関する教育研修や活動を 行っています。

特に工場では薬品やフォークリフト等に関する勉強会、安全パトロール、ヒヤリハット活動、KYT(危険予知トレーニング)活動などを行い、安全意識の向上と事故・災害の防止に努めています。

### ● 労働災害(休業)

2019年度の休業を要した労働災害は0件でした。

### 従業員の健康確保

ストレスチェック(実施率ほば100%)の実施、定期健康 診断(受診率ほぼ100%)、特殊健康診断等の実施に 留まらず、有所見者への再検査並びに治療の徹底を 図る等、従業員の心と身体の健康増進を重視しています。

### 災害発生時に備えた対策

地震等の自然災害や感染症発生時にも、人命の確保や 事業の継続を図るため、BCP\*策定や各種関連訓練の 実施、定期避難訓練や安否確認システムの導入等、さま ざまな対策を実施しています。

※Business Continuity Plan-事業継続計画-のこと。人命の確保と同時に事業の継続を念頭としたさまざまな対策方針を予め定めたもの





### 海外駐在員の待遇改善

2019年度実施目標	実施結果	評	価
【経営企画(人事総務)】 駐在員が成果の出せる環境整備	駐在員にヒアリングを実施し、海外生活支援の 規程類の見直しを実施。一時帰国制度や手当等の 改善、個別の出向前研修(3ヶ月)の実施等を行った。	達	成

### 施設維持管理の最適化による就労環境の向上

2019年度実施目標	実施結果	評	価
【尼崎事業所(保全管理)】 尼崎事業所の施設を最適な状態で保有し、維持 管理する	尼崎事業所の全エリアで設備のマネジメント システムが成立した。	達	成

尼崎事業所のマネジメントシステムが構築できたので、今後、東初島研究所に展開を図ります。

### 情報セキュリティ強化

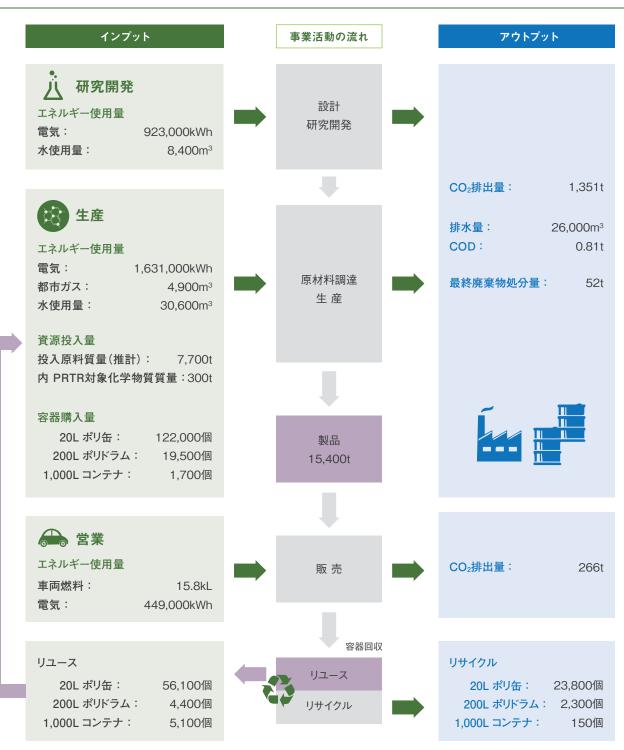
2019年度実施目標	実施結果	評	価
【経営企画(情報システム)】 情報セキュリティ教育の推進	5回の情報セキュリティ教育と、都度のeラーニングツールによる意見聴取により、情報セキュリティのブラッシュアップを図った。情報資産を利用するにあたり、順守すべき事項の浸透を図ることができた。	達	成

也域社会 お客様 仕入先 株主・投資家 従業員 環境

# 環境とのかかわり

メックグループは、その事業活動が、限りある資源を活用して行われていることを自覚し、 常に少しでも環境への負荷を減らす取組みを行っていきます。

### 事業活動に伴う環境負荷の全体像



上記の図は、2019年度の当社の事業活動と環境への関わりについての全体量を表したものです。

### 2019年度の環境会計

当社の環境保全への取組みを定量的に評価するため、環境会計を利用し、コスト(費用)と効果(物量)を算出しています。 2019年度の「環境保全コスト」は151,486千円となりました。この内45%は「研究開発コスト」で、環境負荷の少ない製品の研究開発などに関わる費用です。また4%は使用済み容器の回収や容器洗浄委託などに関わる「上・下流コスト」です。

### 【作成基準】

- ・集計期間:2019年1月1日から12月31日までの12ヶ月。
- ・集計範囲:メック株式会社 単体[尼崎事業所(本社・研究所・尼崎工場)、西宮工場、長岡工場、東京営業所、東初島研究所]
- ・「環境保全コスト」は、目的が明らかに保全活動に関わるものと判断できる場合のみを対象としています。
- ・研究開発コストは、テーマ毎に把握できるものは個別に集計し、直接把握できないものはテーマ毎の勤務時間を基準に比例配分しました。
- ・費用額には、環境保全を目的とした設備の減価償却費、維持管理費および人件費を含んでいます。

### 2019年度 環境保全コスト

	分類	主な取組みの内容	費用額[千円]
(1)事	業エリア内コスト		68,381
	1.公害防止コスト	排水処理設備維持管理、水質汚濁防止等	(25,987)
内訳	2.地球環境保全コスト	省エネルギー対策	( 0)
	3.資源循環コスト 産業廃棄物の処理委託費用		(42,394)
(2)上	・下流コスト	容器の回収・洗浄委託費用等	5,805
(3)管	理活動コスト	環境マネジメントシステムの維持・運用費用、事業所周辺の緑化費用	7,369
(4)研	究開発コスト	環境負荷の少ない製品の研究開発	67,792
(5)社	会活動コスト	地域環境保全活動等	2,138
(6)環	境損傷対応コスト	該当無	0
合訂	t		151,485

項目	金額[千円]
当該期間投資額総額	781,171
当該期間研究開発費総額	1,200,605
(1)-3に係る有価物の売却額	441
(2)に係る有価物の売却額	0
その他(太陽光発電電力)売却額	4,908

也域社会 お客様 仕入先 株主・投資家 従業員 環 境

### 2019年度環境保全効果

「環境保全効果」は、前年度(2018年度)絶対量との増減で表しました。指標によっては、原単位(生産量1t当たりに対する量) も併記しました。

環境保全効果の分類		環境パフォーマンス 指標	指標の値(量) 実績	対前年比	指標の値 (原単位)	対前年比
	事 業 活 動 に 投 入 する資源に関する 環境保全効果	電力の投入量	3,003 [千kWh]	+2.0 [千kWh]	195 [kWh/t]	+13.0 [%]
		都市ガスの投入量	4.9 [千m³]	△4.9 [千m³]	0.3 [m³/t]	△43.6 [%]
(1)事業エリア内 コストに対する環		水の投入量	39 [千m³]	+0.5 [千m³]	2.5 [m³/t]	+14.4 [%]
境保全効果	事業活動から排出 する環境負荷および 廃棄物に関する 環境保全効果	二酸化炭素の排出量	1,617 [t-CO <sub>2</sub> ]	△1.0 [t-CO₂]	105 [kg-CO <sub>2</sub> /t]	+12.9 [%]
		CODの排出量	0.8 [t]	±0.0 [t]		
		産業廃棄物の 総排出量	344 [t]	△9.2 [t]		
(2)上・下流コストに	事業活動から産出 する財・サービスに 関する環境保全効果	ポリ容器のリユース 個数(延べ個数)	56 [千個]	△3.3 [千個]		
対応する環境 保全効果		ポリドラムのリユース 個数(延べ個数)	4.4 [千個]	△0.9 [千個]		



はは社会 お客様 仕入先 株主・投資家 従業員 環境

### 電力使用量

2019年度も2018年度に引き続き、尼崎工場、長岡工場、西宮工場の3工場体制の稼働となりますが、西宮工場の稼働はかなり縮小(製造量71%減)されました。

2019年度総電気使用量は1,630千kWhで、2018年度に 比べて80千kWh、4.6%減少しました。電力使用量の増加に よる環境負荷を少しでも補えるよう、尼崎事業所屋上に 太陽光パネルを設置し、その緩和に努めています。



### 水の排出量

当社製品に水は欠かせない主要原料の一種です。また、それ以外にも生産設備の洗浄等で多くの水を使用します。水資源の無駄な使用を控え、有効に活用するため、製造作業や設備洗浄方法の改善を進めています。容器洗浄には自動洗浄装置を導入し、水使用の管理と適正化に努めています。2019年度の水の排出量は18.9km³で、2018年度と比べて0.4km³の減少となりました。



### ポリ容器のリユース(再利用)に関する取組み

限られた資源を無駄なく有効に活用していくため、ポリ容器のリユースを推進しています。

この取組みに協力してくださるお客様も増え、好循環の輪が広がってきています。お客様先から回収した容器をリユース可能かどうか選別し、可能な容器に関しては、当社ならびに委託業者にて洗浄し、リユースを行っています。

2019年度のポリ缶およびポリドラムの回収率はそれぞれ42.7%、27.2%となりました。ポリ容器の回収・リユースを積極的に行っていますが、海外出荷の増加に伴い、回収率・リユース率ともに年々低下傾向にあります。

コンテナで納入するお客様は限定されますが、コンテナの回収率は77.6%と、他の容器より高い傾向にあります。

### 廃棄物の適正処理

2019年度の廃棄物発生量は344tで、2018年度とほぼ同じでした(9t減、2.6%減)。

廃棄物の発生量のうち、最終処分量は52tでした。最終処分量は、2018年度よりデータ収集を始めましたが、2019年度は2018年度とほぼ同じでした。

また、リユースできないポリ容器は廃プラスチックとしてリサイクル(再生利用)し、廃棄物の最終処分量の削減に努めています。 金属類についても分別し、有価物として売却しており、廃金属としての廃棄はほぼなくなりました。その他、各事業所から出る 廃棄物は事業所毎のルールに基づいて分別しています。

今後も、廃棄物の発生抑制に対する取組みを行うとともに、発生した廃棄物の分別・リサイクルの徹底により、環境負荷の低減に努めてまいります。

### PRTR制度※対象物質の取扱いについて

2019年度に当社が取扱った化学物質のうち、PRTR制度対象物質の取扱量は18物質322tでした。各工場や研究開発部門において、適切な管理のもと、使用しています。

※化学物質の環境への排出量、廃棄物に含まれて事業所外に移動する量を、事業者の報告や推計に基づいて行政庁が把握し、集計し、公表する制度



### 排水の漏洩防止対策の強化

2019年度実施目標	実施結果	評	価
【長岡工場】 外部への漏洩防止対策の強化	漏洩の発生する可能性のある要因を特定して 対策を行った。	達	成

### 未処理排水の流出防止

2019年度実施目標	実施結果	評	価
【尼崎工場】 尼崎工場から外部へ未処理排水を流出させない	左記の目標を達成した。	達	成

### 排水処理設備の負荷低減と緊急時の対策の構築

2019年度実施目標	実施結果	評	価
【尼崎事業所(研究開発)】 排水処理設備の負荷低減と緊急時の対策の構築	①水の過剰使用を監視できるようセンサーを設置、 過剰使用した場合にはアラームが作動 ②研究施設内の濃厚廃水の流出防止施工を 標準化 ③研究施設内での万が一の濃厚廃液漏洩に備え、 対処フローを整備	達	成

# 国際認証の取得状況

(ISO9001およびISO14001)

### 品質方針

メック株式会社は、ISO9001に準拠した品質マネジメントシステムに従い、顧客に信頼される品質を目指します。

顧客最優先の品質第一主義の考えを基本に、顧客価値 創造経営を実現する品質・信頼性を確保する。

すべての部門における全員参加の業務において、PDCA サイクルを堅持し、プロセス、製品、サービスの継続的 改善を実践する。

> 2020年1月6日 メック株式会社 代表取締役社長 **前田 和夫**

### 環境方針

- 1.当社の活動に係る環境側面を認識し、環境関連法規およびその他の要求事項を順守すると共に、環境マネジメントシステムの継続的改善と管理レベルの向上に努める。
- 2.資源の有効利用、汚染の予防及び環境保全のため、
  - ・省エネルギー対策
  - ・廃棄物の削減、リサイクル
  - ・プロダクトライフサイクルに配慮した製品の提供
  - ・化学物質管理の実施を推進する。
- 3.この環境方針は当社で働く全ての人に周知すると共に、一般の人にも開示する。

2015年4月1日 メック株式会社 代表取締役社長 **前田 和夫** 

### ISO9001

### メック株式会社の認証取得状況

### ・メック株式会社

対 象 事 業 所:尼崎事業所、東京営業所、西宮工場、長岡工場

初回認定年月: 1996年7月

### メックグループの認証取得状況

### ・メック台湾

初回認定年月:2000年9月

・メックヨーロッパ

初回認定年月:1996年11月

・メック中国(蘇州)

初回認定年月:2003年7月

・メック珠海

初回認定年月:2003年8月

### ISO14001

### メック株式会社の認証取得状況

### ・メック株式会社

対 象 事 業 所:尼崎事業所、東京営業所、西宮工場、長岡工場

初回認定年月: 2000年9月

### メックグループの認証取得状況

### ・メック台湾

初回認定年月:2010年12月

・メックヨーロッパ

初回認定年月:2008年5月

・メック中国(蘇州)

初回認定年月:2003年7月

・メック珠海

初回認定年月:2005年7月

### 【会社概要】

会 社 名: メック株式会社 MEC COMPANY LTD.

本社所在地 : 兵庫県尼崎市杭瀬南新町3丁目4番1号

代 表 者: 代表取締役社長 前田 和夫

主な事業内容: 電子基板・部品製造用薬品の開発、製造販売及び機械装置、各種資材の販売

設立年月日: 1969年5月1日

資 本 金: 594,142,400円

上 場 市 場 : 東証一部(証券コード:4971)

従 業 員 数 : 231名(単体)、397名(連結)-2019年12月31日現在

グループ会社 : 台湾美格股份有限公司、香港美格有限公司、美格精细化工(珠海)有限公司、

美格特殊化学(苏州)有限公司、

MEC SPECIALTY CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD., MEC EUROPE NV.



